

# おに図書館

No.132

発行 代表 おにい図書館  
青木 和子  
松本市牧の床 1-104-416  
TEL 047-311-0886



浦安市立  
中央図書館

見学

2008年6月の千葉県内図書館関係団体連絡会第6回交流会の会場は、浦安市立中央図書館でした。久しぶりに訪れました(秋久保)。開館25周年を経ても尚、新たな実践に取り組む姿勢を目的の当たりにし、今回の見学会を企画しました。

2008年11月20日(休)、3年ぶりの見学会は「おにい図書館」としては、通算15回目。参加者は、松戸市議2名と近隣の市議1名を含む14名でした。

以下、参加された方々の感想を

ご紹介します。

館の前に立っただけで、噂に聞いていたすばらしさを感じました。



文化にお金をかけると市民の心が豊かになると思うし、市役所や文化ホール等が一ヶ所にまとまっている立地の良さ、また館長の市民に奉仕するという考え方々松戸から引越して来たい気になりました。

図書館の明かるさから、利用する市民の心も明かるくなり、館員が全員司書の有資格者、またホウナンテイクアに頼らず、いろいろとサービスしている姿に、

市の違いを感じました。

噂にたがわず、素晴らしい空間でした。

蔵書数はもちろんのことですが、利用する人の「使いやすさ」を中心に考えられていました。様々な可能性を考慮した上のサービス内容に、感激の溜息ばかり。

松戸市長を連れて、ぜひ見学を。二年振りに浦安図書館を訪れましたが、新たな発見がいくつもありました。

中でも、オススメの本が時期に合わせて変わっていて、常に飽きさせない工夫がされていた事が印象的でした。おそろしく司書さんの配慮だと思えます。

いつ行っても、人の優しさを感ずる場所でした。

館長さんのお話を聞きながら考

えた。

一、図書館の目的・意味づけを聞いて、再確認でき、嬉しかった。また羨ましく思います。

一、松方に浦安のような図書館を構築するには、どうしたらよいか。

(中央図書館)

土地・お金の問題。よい図書館をつくらうとする意欲を持つ事。

図書館建設についての情報の収集など：考えなければならぬかなし。

一分館方式も「歩いて図書館に行ける」という考えで、松戸の分館方式もよい。しかし、内容の充実

が必要だと思う。

。浦安市民10万人に対して、浦安市立図書館の来訪者数が年間10万人、貸出し冊数200万冊。松戸市の

図書館事業と比較すると、大変羨ましい。浦安市立図書館は単なる

図書館というより、市民活動の拠点となっており、これが図書館の

本来のあり方だと思う。

浦安市立図書館の館長による

と、図書館を図書館単体として考えるのではなく、市の行政の中

における図書館の役割を果たすというところが重要とのこと。要

するに、図書館を単なる貸出施設として考えるのではなく、市

の文化活動・教育活動・経済活動等の要だということだそうです。

時間があれば、もっと浦安市立図書館で時間を過ごしたかったです。

。財政畑におられた館長さんが

図書館に移動になり、最初はその部署に戻れる日を待ち望んでいたが、「図書館」を知るに

つれて、こんなに素晴らしい職場は他に無い、と思えるに到った

というお話が心に沁みました。

図書館とはそのような所なのだということに気付いた館長さ

んは、素晴らしい方だと思います。

このような館長と、フレイトと情熱を持って図書館サービスという仕事に取り組む職員が居られる

限り、浦安図書館の未来は、逆風に負けずに進んで行けると確信

します。そのような図書館を、これから浦安市民は支え続けること

でしようから。

講演会

「子どもが算数好きになるとき」



2008年12月14日(日)、数学教育研究者で「算数たんけん」(偕成社全

9巻)の著者であり、元自由の森学園長の松井幹夫さんの講習会を

開催しました。

前年秋の講習会は大好評で「是非もう一度」との声が多く聞か

れたので、第2回目を企画しました。予想に反して、今回初めて参

加された方が多く、このような講演会を開催する難しさを感じました。再び松井さんの誠実で温かいお人柄に触れ、世の中や教育を見る温かく確かな視点を示して頂けたことを、有難くまた嬉しく思いました。

皆様から多くの感想を頂きました。その中からご紹介します。

感想

○子どもがつまずくところは我が子にもあてはまり、とても参考にになりました。

自分自身が、計算だけを公文式で鍛えて考えることをしなかったため、高校進学で訳がわからなくなり、高校進学で、数学の楽しさ・面白さを子供に伝えたいと思っていました。

またの機会を楽しみにしています。

○小学生はぼくは、いつもさん

すうをやるとき、たしたり九九のなかで見つけてきたえをかいていたけど、わかりやすいことをおしえてくれて、わかりやすかった。

○中中学生はよくわかったのは小教のかけ算で、よくわからなかったのは分教のかけ算わり算です。

松井先生の数学は教科書とはちがって、どういう意味でわり算をやるのか、よくわかった。2けたでわるわり算は、自分(教科書)のやり方とはちがって、印をつけるので、わかりやすかった。

○実際の算数の問題をときながら、算数の問題のとき方だけではなく、他の問題についての考え方も教えてもらえたと思います。子供の算教に直接むすびつけ

られるかどうかはわかりませんが、他のことにも役立てられるように思いました。

○昔、勉強がきらいだった時、「学ぶとは哲学に通ずる、哲学は生きる為の学問だ」といわれた事を思い出し、いかに学ぶという事が楽しい事かと気づかせてくれる先生のお話でした。

今の日本の現状を考えると、先生に是非ノーベル賞をさし上げたと思います。

卒業式で子供達が歌いたい歌を選べるまでに育った、という事が教育かなと思いました。

昨年の「アメリカに屈服しなかったのは、ベトナムだけ」という言葉も心に残っております。

○今まで機械的にしか計算していなかったのを公式に頼って、なぜそうなるのかをうまく子ども

に教える(説明する)ことができず、子どもも算数はニガテ...という気持ちを持っていてるところです。今日のお話を聞き、かけ算とは何か、割合とは何か...改めて考えさせられました。本当に基本的なことを楽しく学べたら、どんなに子どもたちも意欲的に取り組めることでしょう。

最後の卒業式(自分たちのための)のビデオに感動しました。皆それぞれ個性のあったのが、印象に残りました。

○ほんとうに「目からうろこ」の講演でした。「1」の大切さ、体験を通じた算教...とてもよくわかりました。

私は算教はきらいでしたが、今は好きになりました。

松井先生、いつまでもお元気で活動なさって下さい。

低学年の算教のこと、自由の森

学園のこと、発達障害について、日本のこれからの教育について、卒業式に感動しました。

。「分教の割り算」は「分母と分子をひっくり返してかける」。この一見当り前を「なぜ?」と問う所に、松井先生の授業の醍醐味があると感じました。

答えを暗記することを急ぐのではなく、考える過程を重んじる事は、現代社会にかけている。必要な点だなあと思いました。

それを先生は、数学(算教)を例にして伝えて下さったと思います。ありがたうございました。

。「1は動くことができる」「1じゃないものを求めるのがかけ算」「割合とは1が変わる世界」なる程、そうなのか!!と

60+α歳にしてやっと納得できたことが、とても嬉しかったです。

「子どもたちが選択する権利を保障するのが教育であり、子どもたちのしあわせのためにあるのが教育である」という松井先生の考え方は、本当にその通りだと思います。どうしてこの国は、こんな大事な指針をないがしろにするのでしょうか?

松井先生!どうぞこれからもご健勝で、子どもたちのためにご活躍下さいませよう、お祈り申し上げます。

★世の中の子どもたちのために、時間の許す限り、ボランティアに徹した活動を続けておられる松井幹夫さんとまついのり子さんへ絵本作家)ご夫妻の崇高な理念に、非常に胸を打たれました。

松井さんのお話を、学校の先生や教育委員会の方々に是非聞いて頂きたい、と心から願っています。